

## 訳例における「的」と「の」の対応

陶 紫 平

---

- 一. 名詞連接での「的」と「の」の対応
- 二. 形容詞に「的」が後接する
- 三. 動詞に「的」が後接する

### 始 め に

中国で発明された漢字がやがて日本に伝わったためか、中国と日本は同文同種とも言われる。中国語と日本語には、そのつながりと思われる対応が多く存在することが認められている。中国語と日本語は系統が違うと思われるが、そのつながりを追求することを課題としている者がいる一方で、互いに外国語である日本語あるいは中国語を当然のように母国語と同じように用いて間違いを犯す者もいる。

日本語を勉強する学生の間違いの例をあげると「昨日は涼しいの一日でした」, 「忙しいの日」というのがある。つまり中国語の「凉爽的日子」, 「繁忙的一天」と言う語句では形容詞に「的」を付けて使うから、日本語の形容詞にも「の」を付けて怪しい文をつくってしまったのだ。

言葉一つ一つをその語源や時間の経過による変化について追求することは重要であると同様に、母国語と外国語の使い方の類似や相違について比較検討し、分類することもまた重要である。

本稿は試みに「的」と「の」の対応についてまとめた。少しでも日本語、あるいは中国語を勉強する人のために役に立てば幸いである。

## 一. 名詞接続で「的」と「の」の対応

(一) 名詞接続で、中国語は「的」で日本語は「の」で接続するので、名詞接続で「的」と「の」は対応関係にあることが見られる。

○以后的事不知道／以後の事は知りません。

○现在是种麦子的季节／今は麦まきの季節だ。

○上午的课结束了／午前の授業は終わった。

○在北京的大学学习／北京の大学で勉強する。

○多方研究的结果／広範囲の研究の結果。

○危害人的健康／人の健康に害を及ぼす。

○研究莎士比亚戏剧的权威／沙翁劇の権威だという偉い先生だ。

以上の例を考えると、「的」も「の」も名詞接続をし、両方とも省略できないように思える。「的」で接続された語句が三文字以上の場合、あるいは語い感の薄い場合は、やはり前と後の名詞を「的」で接続するのが習慣的だと言えるだろう。

(二) 「連体助詞『の』はその32%しか『的』と対応しない。これは『の』が接続できる二つの体言の範囲がより広いことと中国語ではこの場合『的』が省略されたり、不必要であったり、またはそのほかの語になるからである。」

(王宏「中国での日本語教育を通して見た日本語」)

中国語において、名詞が名詞を修飾することが自由で、随意に二つの名詞を結びつけることができる。

「的」は独立化、焦点化の作用を強く持つため、語の中に納まることなく、「甲の乙の丙……」という表現は可能な限り避ける。日本語の「の」は語の中に納まる弱い成分で、「甲の乙の丙……」という表現に全く抵抗感がない

ようだ。

- 竹笋／竹の子      ○松子／松の実
- 菊花／菊の花      ○女老师／女の先生
- 茶叶／茶の葉      ○羊肉／羊の肉
- 瘦肉／赤の肉      ○灯罩／電灯のかさ
- 脚指头／足の指    ○鹿角／鹿のつの
- 掸烟灰／たばこの灰を落す。
- 池水干了／池の水が干あがった。
- 秋收完了／秋の取り入れが終わった。
- 兄弟很和睦／兄弟の仲がよい。
- 乡村人很纯朴／田舎の人は純朴だ。
- 谋求国家利益／国の利益をはかる。
- 承认犯了盗窃罪／泥棒の罪を犯したと認めた。
- 主张个人权利／個人の権利を主張する。

日本語の「この、その、あの、どの」を中国語で指示語＋助数詞で表現する。

- この子はなんと物わかりがいいのだろう。

这个孩子多懂事呀！

- あの先生は本当に怖い。

那个老师真可怕。

- きみはどんな種類の本が読みたいのか。

你想读哪种书？

- 歴史上その例を見ない。

史无前例。

中国語では「方位詞」と前の名詞が密着して、「的」を用いないが、日本語では「の」で名詞と「方位詞」を接続する。

- 在镜子前化妆／かがみの前で化粧する。
- 在山里徘徊／山の中をさまよう。
- 在坟前哭／墓の前で泣く。
- 桌上放着书／テーブルの上に本が置いてある。
- 技术上落后了／技術の面でおくれた。
- 扔到水里／水の中に投げこむ。
- 请坐在我旁边／わたしのとなりにおかけなさい。
- 街口开了一家商店／町のはずれに店を開いた。
- 从学生中挑选运动员／学生の中から選手を選ぶ。

数詞＋助数詞＋名詞の場合、中国語は「的」を使わないが、日本語は「の」で数詞・助数詞と名詞を接続する。

- 今天有三节课／今日は三回の授業がある。
- 把一个点心掰成两半／一つの菓子を二つに割る。
- 看见一丝光／一条の光が見える。
- 假设一个程度／一つの程度を設ける。
- 乘坐135次航班的乘客／135便の飛行機にお乗りの方は……。
- 你有几册中文杂志／あなたは何冊の中国語の雑誌がありますか。
- 一年分为四季／一年は四つの季節に分かれる。
- 十年内乱时期／十年間の内乱。
- 全国60岁以上老人总数将达3.2亿／全国の60歳以上の老人総数は3億2千万人に達する見こみ。
- 我国进入了第三次人口生育高峰／わが国は第三回目の出産高潮期に入り。
- 今年第三号强台风于今日在广东沿海登陆／本年第3号の大型台風は本日広東省沿海に上陸。

「の」で文言の生き残りである「之」を訳す。

- 惊弓之鸟／傷弓の鳥

- 他山之石／他山の石
- 犬马之劳／犬馬の劳
- 井底之蛙／井の中の蛙
- 百万之师／百万の軍隊

## 二. 形容詞によく後接する「的」

中国語の一音節形容詞が連体修飾語として直接被修飾語名詞と結合する文は、日本語の形容詞が連体形で体言を修飾する文と同じ構文である。この類の中国語の形容詞の修飾語は類別の根拠で、限定的である。連体修飾語と名詞との結合関係に語い化の傾向や、修飾語と被修飾語に選択関係があることが見られる。

- 白纸／白い紙      ○红蜡烛／赤いろうそく
- 黑爪子／黒い手    ○冷风／冷たい風
- 他披着一件黑斗篷……嘴里吐着白气。

頭からすっぽりと頭巾のついた黒っぽい外套を着て……口から白い息を吐きだす。

- 这种人心里总好惦记鸡毛蒜皮的小事。

つまらないことが気になる。

- 他们的灵魂象红玛瑙一样……。

かれらの魂は赤いメノウのように……。

やはり一音節形容詞であるけれども、それに「的」が付けて使われる例もある。

- 28岁的浩宫德仁成为新的皇太子。

28歳の浩宮徳仁は新たに皇太子となる。

- 设计师们在颜色和式样上赋予时装以新的时代气息。

デザイナーたちは色やスタイルの面でファッションに新たな時代の息吹き

を与えている。

「新的皇太子」も「新的时代气息」も「的」を取り除いても意味が変わらないが「的」を使うとすこし強調になると思う。

○我买不起这么贵的东西。

わたしはそんなに高い物が買えません。

○那么短的时间可做不出来。

あんなに短い時間ではどうしても仕上げられない。

○这么多的雪，我还是第一次看到。

こんなにひどい雪はわたしには始めてです。

形容詞の前に「这么」，「那么」が来れば，形容詞が「的」と一緒に使わなければ怪しい場合がある。

中国語二音節形容詞になると，それが連体修飾語として直接被修飾語と結合しなく，被修飾語との間に「的」が介入するようになる。

「二音節形容詞+的」という構文はやはり形容詞的なもので，名詞的なものではない。描写的で，言及した事物の状態や様子を描写するためのものである。日本語では形容詞は連体形しか後ろの名詞を修飾しないからいかなる場合も「的」を「の」としない。

○鲜红的花／赤い花

○聪明的动物／賢い動物

○鲜嫩的藕／新鮮でやわらかいレンコン

○可耻的行为／見苦しい行ない

○蚊子多藏在黑暗的地方。

蚊はよく暗い所にいる。

○国外确实有非常严酷的自然环境。

国外には非常に厳しい自然環境がある。

○日本是一个气候十分温暖的国家。

日本はたいへん温暖な国である。

○十多个凶猛的家丁冲进了马厩。

十数人の荒くれ男が馬小屋におどり込む。

○对我国经济和社会发展亮出了一张耀眼的黄牌。

わが国の経済と社会に強烈な要注意の信号が灯った。

○汉语拼音方案具有深厚的历史基础。

漢語表音ローマ字方案は長年にわたる歴史的基礎がある。

中国語三音節、四音節（重疊形）にも「的」が後接し、それを取りはずせば不自然な文になる。

○红通通的火苗。

真赤な炎。

○天已经黑糊糊的了。

空はすでに暮れ、黒々としている。

○这种菜甜丝丝的很好吃。

この料理は甘みがあってとてもおいしい。

○听着这响当当的话，我还能说什么呢？

こんなはっきりした言葉をきいていて、わたしが何を話せますか。

○白花花的米流了出来。

まっ白な米が流れて来ました。

○抽出那把亮闪闪的大刀。

キラキラ光る青竜刀を引き抜く。

○忽然看见山脚下有个绿油油的东西。

突然山のふもとに緑したたるものを見つけた。

○闻到一股香喷喷的味道。

いい香りがプンブンにおってきます。

○干干净净的衣服。

清潔できれいな衣類。

○山下有一排整整齐齐的瓦房。

山のふもとには整然とした一並びのかわらぶきの家がある。

○浩浩荡荡的长江。

とうとうたる長江。

○皱皱巴巴的布料。

しわくちやの布地。

○看着他那舒舒服服的样子……。

彼の気持ちよさそうな様子を見て……。

○屋外站着一个战战兢兢的孩子。

部屋の外に一人の戦々恐々としている子供が立っている。

○原宿每天都是熙熙攘攘的。

原宿は毎日人が往来してにぎやかである。

「的」が程度副詞と一文字形容詞の結びつきに後接し、連体修飾語や述語となる。

○挺好的东西／すごくいい物。

○多美的大海呀！／なんと美しい海でしょう。

○他泡了一杯很浓的乌龙茶。

彼は濃いウーロン茶を一杯いれた。

○取得相当大的成功。

かなり成功している。

○较低的工业技术。

比較的立ち遅れている工業技術。

○是日本历史上寿命和在位最长的一位天皇。

日本の歴史上寿命と在位の最も長い天皇であった。

○是我国目前规模最大的现代化综合性习武场所。

それはいまのところ、わが国最大の近代的総合練武場である。

○他的胡子够硬的。

彼のひげはすごく硬い。



○即使那样也是够冷的。

しかしそれにしてもたいへんな寒さである。

「是」が用いられ、文末が「形容詞＋的」である文は、断定的な意味分類を示し、名詞的な構造なので、日本語も名詞述語文で訳す。

○这个消息是真的。

このニュースは本当である。

○那张画是假的。

その絵はにせ物である。

○这种说法是错的。

こういう言い方は誤りである。

○这朵花是红的。

この花は赤い花である。

○亚太地区总的形势是好的。

アジア太平洋地区の総合情勢は良好である。

○美国公司要打进日本计算机市场是非常困难的。

アメリカの会社が日本のコンピュータ市場へ進出しようとするればそれは非常に困難なことである。

○大多数学生的恋爱态度是严肃的。

彼らの恋愛態度は真面目である。

文末がやはり「形容詞＋的」で、もしその前に「是」だけではなく、「挺」や「很」など評価的な副詞があれば、この「形容詞＋的」は形容詞的なもので、日本語も形容詞で訳す。

○那身衣服是挺新的。

その服は確かにとても新しい。

○今儿的饭倒是挺烂的。

今日のご飯は確かにとても柔らかい。

○这本书挺便宜的。

この本はすごく安い。

主語が「単音節形容詞＋的」文は名詞構造で、名詞句の性質を具えている。この「的」について名詞性接尾語である説がある。日本語の「形式名詞」と言われる「の」と対応する。「的」と「の」の役目がはっきり一致するようである。

○好的多，坏的少。

よいのは多く、悪いのは少ない。

○红的漂亮。

赤いのがきれいだ。

○据说短的仅有 30 米。

短いのはわずか30メートルだそうだ。

○一个四合院多的住十几家。

一つの四合院に多いのでは十数所帯が住んでいます。

○十几个年纪轻胆子大的带路。

大胆な十数名の若者たちが道案内をした。

### 三. 動詞によく後接する「的」

「的」が動詞に後接し、文末に使う文は、断定や解釈または強い疑問の意味を示す。この「的」の意味や役割から考えて、形式名詞の「の」とほぼ同じだが、完全に対応関係にあるわけではない。

○小王是昨天来的。

王さんは昨日来たのだ。

○我是坐飞机来的。

わたしは飛行機に乗って来たのです。

○我不是来玩的，是跟爷爷来打老虎的。

ボクは遊びに来たんじゃない。おじいちゃんと虎狩りに来たんだ。

○你脑子里的智慧，是怎么学来的？

おまえの頭の中の智慧は、どういうふうにして学んだのか。

○他是在学校写的。

彼は学校で書いたのだ。

○你们是怎么认识的？

あなたたちはどういうきっかけで知り合ったのですか。

○那不行。我是一百八进的。

それはだめ。わたしは百八十（元）で仕入れたのだ。

「是……的」はすでに行なわれた動作についてその方法，時間，道具等を強調するが，「の」は過去の事でなくても使われたり，過去の事であっても使われなかったりする。中国語の動詞は活用がなく補助的な言葉で時態などを表すが日本語はその必要がないためだろう。

○あなたはいつ日本に来るのですか。

你什么时候来日本？

○杉木社長はいつお着きになりましたか。

杉木经理，您什么时候到的？

○あなたは何年に生まれましたか。

你是哪年出生的？

○これはぼくのしたことだ。

这事是我干的。

「的」を「もの」で訳される例

○蛇是可以吃的。

蛇は食べられるものだ。

○这件毛衣是他自己打的。

このセーターは彼自身が編んだものだ。

○切糕是用江米面和黄米面做的。

「切糕」というのはもち米ともち粟の粉で作ったものだ。

○这火炉和饼子，一定是马良画的。

この暖炉や焼き餅は馬良が描いたものだ。

動詞に後接する「的」文は文末ではなく、文中に使われてもやはり過去のことには用いられる。「的」は前の動詞と連体修飾語のようなものとなる。日本語の用言に活用があり、動詞が連体形で後の体言を修飾するから「的」を「の」で訳さないわけである。

○我送的礼物是一枝花。

わたしが送ったプレゼントは一本の花だった。

○我看的那个电影演员都是中国人。

わたしが見たその映画の出演者はみんな中国人だった。

○以后，我们不仅仅只是接受邻居们送来的美味饭菜……。

その後、わたしたちは隣人たちがくれるおいしいおかずをもらっているばかりでなく……。

○我要把失去的光阴夺回来。

わたしは失った時をとり戻します。

○有一次，正是表弟要回来的日子……。

ある時、ちょうど弟が帰ってくる日……。

○他在各地发表的论文，能找到的我全读了。

彼が各地で発表した論文で手に入れられるものはすべて読んだ。

○自己种的苦果自己尝。

自分でまいた種は自分で刈る。

○我是个好丈夫，我做了一个丈夫应该做的一切。

わたしは良い男であった、わたしは男がやるべきすべてをやった。

○许多该忘的东西忘不了，许多该记的东西记不住。

多くの忘れてしまうべきことが忘れられず、多くの記憶すべきことが覚え

られない。

四文字熟語に付く「的」は強調するか、口調を整えるために使われている。

○毕竟是不入流品的。

所詮は品格のある作品には含まれない。

○至于闺房之私，那是人皆有之的。

奥向きで、プライベートに至っては、誰にでもそれはある。

○「下海者」们在「大海」中的航行绝不会是一帆风顺的。

「下海者」（市場経済の海に足を踏み入れた者）たちが「海」での航行は絶対に順調に進むはずはない。

○遇有哪种环境，应以哪种水烹哪种茶，都是一毫不爽的。

どういう環境で、どういう水でどういうお茶をたてるべきか、万に一つも間違わぬことだ。

動詞に後接する「的」と「の」文が主語となる文では、「的」と「の」の後ろの名詞が省略され、その前の用言あるいは文を名詞化する。この「的」と「の」の作用が同じだと言える。

○来的是个干瘪的老头。

やってきたのはひからびた老人だ。

○摇钱树上长的都是钱。

金のなる木に実るのはお金ばかりだ。

○早上出的白太阳。

朝出たのは白い太陽だった。

中国語の主従構造（述語と目的語との組み合わせ）は一般に直接後の名詞を修飾できなく、「的」がそれに後接して、連体修飾語のようなものを作る。

中国語の述語の後ろに目的語が来る語順に反して、日本語は目的語が前に、その後ろに述語が来るから、述語となる用言が連体形で後ろの体言を修飾す

る。

○开车的人／車を運転する人

○喝酒的男人／酒を飲む男性

○跳舞的女孩／踊りを踊る女の子

○那儿有许多骑自行车的年青人。

そこに大勢自転車に乗っている若者がいる。

○马良是个有志气的孩子。

馬良は根性のある子供でした。

○害人的大老虎。

人食いの大虎。

○人人都有一个能够区分是非好坏的脑袋。

人は誰でも是非を区別する頭を持っている。

○妈妈给你的零花钱，你全买冰棍吃了？

お母さんがあげたお小遣い全部アイスクャンデーを買って食べてしまったの。

中国語にも日本語にも述語と目的語の組み合わせに名詞が結びつき固定名詞となるのががあるが、中国語は固定名詞が多くないのか、名詞のかわりに「的」を用いて固定名詞のようなものを作る。

○牧羊人／羊飼　○流浪者／浮浪者

○当兵的举起棍子就打……。

兵隊は棒をふりあげ、打ち下ろします……。

○收废品的来了。

屑屋さんがやってきました。

○下午卖东西的就更多了。

午後になると、物売りは更に多くなります。

○有钱的给钱，没钱的站脚助威。

お金のある人はお金を、お金を持っていない人は足を止めて声援してくだ

さい。

○卖熏鸡的、卖驴肉的陆续出来了……。

燻製チキン売りやロバ肉売りが次々と現われ……。

○主要是卖小吃的。

主に軽食を売る人です。

○看变戏法的。

手品を見る。

○原来是卖菜的。

これは野菜売りです。

○欢快的唢呐声招徕了一胡同看热闹的。

楽しいチャルメラのメロディーが横丁に一杯の見物人を招き寄せた。

もともとその職業についての固定名詞があるが、それを使わず「……的」を用いて軽蔑の意を表すこともできるが、日本語はどうだろう。

○当兵的（士兵）举起棍子就打。

兵隊は棒をふりあげて打ちおろします。

○他妈妈是个收破烂的（废品公司的）。

彼のおかあさんはくず屋さんだ。

○不就是个做饭的（厨师）吗？！

ただのコックにすぎないじゃないか。

「……似的」は日本語は「……ようだ」となる。

○就觉得有点遗憾似的。

どうも残念な気がするようです。

○办公室里好象没人似的。

辦公室に誰もいないようだ。

○我好象感冒了似的。

わたしはかぜを引いたようだ。

○像雪似的那么白。

雪のように白い。

「呀」と呼応して、口語でよく使われる「○呀○的」文は、状態を表す。

○说呀笑的。

ワイワイガヤガヤやっている。

○打呀闹的。

取っ組み合いをしたり騒ぎ回ったりしている。

○每天就是跑呀跳的，不停闹。

毎日走ったり跳んだりだけして一刻もじっとしない。

一文字の擬音語に付く「的」文は日本語は擬音語や擬態語で訳す。

○我的头轰的一下子大了起来。

突然わたしは頭をガンと殴られたような気がしました。

○我们大伙的脸刷的一下子都吓得煞白了。

わたしたちみんなの顔はこわくてさっと青白くなった。

○门呀的一声开了。

門がぎいと音を立てて開いた。

○对准一个太阳，嗖的射一箭。

一つの太陽めがけてヒュッと矢を放つ。

○当的一声。

かあんという音。

○铁门哗的一声拉上了。

鉄のとびらががちゃんと音がして閉めた。

○鸣的一声，一辆汽车飞驰而过。

ぶうと音を立てて1台の自動車がすごいスピードで通り過ぎた。



## 終わりに

- 一. 「的」と「の」は同じように使われる時もあるが、本稿では名詞連接で「の」が「的」より多く使われるのと「的」がよく形容詞や動詞に後接し使われるが「の」はそうのように使われないのを主に訳例を通してまとめた。
- 二. 中国語と日本語は使い方が違っててもその中から規律のようなものを捜し出そうと思ったができないのが沢山ある。これは言語は数学などと同じように一つの事から類推して多くの事を知ることができない面があるかもしれない。
- 三. できれば一般的な使い方や、普通の例文を選んだが、言葉はやはり例外があるから自分なりにまとめた。

1995年11月25日

## 参 考 書

『現代中国語辞典』香坂順一編著 光生館

『中国語関連語辞典』香坂順一編著 光生館

『現代中国語文法研究』朱徳熙著 松村文芳訳 白帝社

『新編・東方中国語講座』読物篇翻訳篇 遠藤紹徳 大原信一 東方書店

『北京的生活』孟広学著 鈴木英紹訳 花伝社

原文対照中国語模範訳シリーズ Vol. 2 人間の始まり 編訳注 孫宗光